

難治性褐色細胞腫を対象としたI-131 3-iodobenzylguanidine (¹³¹I-MIBG) 内照射療法

申請医療機関：金沢大学附属病院

概要

難治性褐色細胞腫（原発巣の高度局所進展例、遠隔転移例、外科的切除後の再発例で外科的切除、根治的放射線外照射が不可能なもの）に対し、**β線放出核種**である¹³¹Iを標識したカテコールアミン類似物質（**¹³¹I-MIBG**）を投与する。¹³¹I-MIBGは腫瘍細胞へ集積してβ線を放出し、殺腫瘍効果を発揮する。

技術の特徴

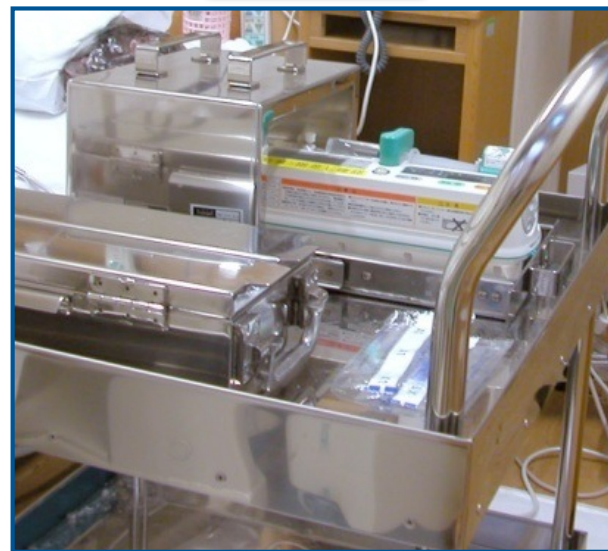
¹³¹I-MIBGは、体内に存在するすべての腫瘍細胞に効果的に取り込まれ、病変の部位に関わらず殺腫瘍効果が期待できる。抗腫瘍薬と比較して有害反応は軽微でありかつ単回投与であるため患者の身体的・社会的負担が軽く、患者の生活の質を低下させることなく治療が可能である。

治療病室



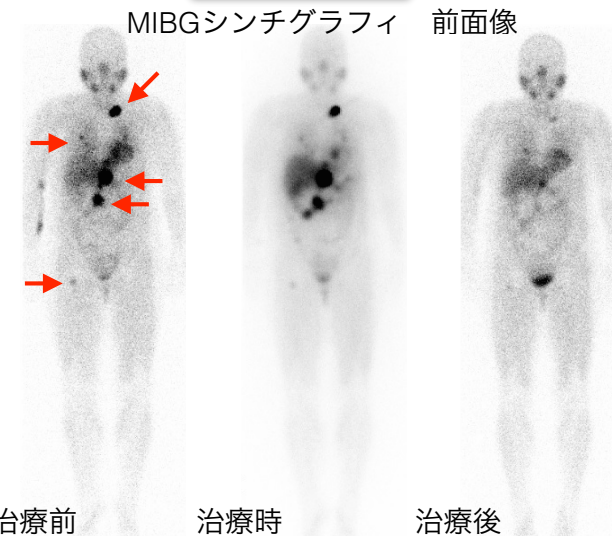
患者以外の放射線被ばくを避けるため、**放射線管理区域内**の治療病室にて治療を実施する。

薬剤投与



調整時及び投与時の薬剤は、**鉛遮蔽体**に配置される。治療薬の投与は約1時間で終了する。

治療効果



治療前に確認した¹²³I-MIBGの集積部位＝**病変**（赤矢印）へ¹³¹I-MIBGが集積する。治療後に¹²³I-MIBGの集積低下を確認することで治療後の効果判定も行える。